

平成29年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 枝光 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生は、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	11.0	74	5.1	57	11.6	77	4.9	44
全国	11.2	75	5.2	58	11.8	79	5.1	46

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率をやや下回っていたが、書く能力は基礎ができていた。 ・言語知識理解を問う問題に課題があり、当該学年までの漢字を活用する場面を設定し、習熟を図る。
	よくできた問題	・目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く問題については正答率が高かった。
	努力が必要な問題	・漢字を正しく書く問題については、正答率が低く、無解答率も高かった。

国語B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を下回っていた。 ・目的や意図に応じ、文章全体の構成を考えることについてはよいが、必要な内容を整理して書くことについて課題がある。
	よくできた問題	・目的や意図に応じて、文章全体の構成を考える問題については、正答率が高かった。
	努力が必要な問題	・目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書く問題については、正答率が低かった。

算数A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を下回っていた。 ・特に「数と計算」「図形」「数量関係」領域の数値についての技能に課題がある。まずは、四則計算の定着を図る取組を強化していく必要がある。
	よくできた問題	・乗法で表すことができる二つの数量の関係を理解する問題については、正答率が高かった。
	努力が必要な問題	・資料から、表の合計欄に入る数を求める問題については、正答率が低かった。

算数B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を下回っていた。 ・特に「数量関係」領域の思考に課題があり、示された式の中の数の意味を、表と関連付けながら正しく解釈し、それを記述することが難しかった。
	よくできた問題	・直線の数とその間の数の関係に着目して、示された方法を問題場面に適用する問題については、正答率が高かった。
	努力が必要な問題	・示された式の中の数の意味を、表と関連付けながら正しく解釈し、それを記述する問題については、正答率が低かった。

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概

質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・将来の夢をもっているかを測る設問では、肯定的回答をした児童の割合が全国平均を下回っていた。 ・話し合う活動を通して自分の考えを深めたり広げたりすることができるかを測る設問では、肯定的な回答をした児童の割合が、全国平均を下回っていた。 ・算数の授業で学んだことを普段の生活の中で活用できないか考えているかの設問では、肯定的回答をした児童の割合が、全国平均を上回っていた。 ・家庭での学習を自主的に行っているかを測る設問では、肯定的回答をした児童の割合が、全国平均を下回っていた。 ・読書は好きかを問う設問では、肯定的な回答をした児童の割合が、全国平均を上回っていた。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ・朝学習の時間や放課後の時間に算数の練習問題に取り組みせ、計算の技能の習熟等を図る時間を設定する。
- ・枝光のルールの共通理解及び徹底を図る。(用具、服装、姿勢、板書・ノート、学び合い方、時間配分等)
- ・主題研究の取組を軸に、授業の中で思考の可視化と学び合いを位置付けることを、全学級で徹底する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・家庭学習の進め方の掲示をしたり、児童の自学ノートを紹介したりするコーナーを校内に設置する。(家庭学習の意義・家庭学習の進め方等を明記)